

平成23年度 大和第三小学校 校内研究に関する校内研修ふいかえい

研究テーマ

児童一人一人が自ら考え表現する力を育てる学習活動のあり方～国語科の「話すこと・聞くこと」の活動を通して～

研究のねらい

国語科の「話すこと・聞くこと」の活動を通して、児童一人一人が自ら考え表現する力を育てる学習活動のあり方を究明する。

研究の仮説

- ・ 小規模校の実態に即した指導方法を工夫すれば、自ら考え表現する力が育つだろう。
- ・ 「話すこと・聞くこと」の活動の楽しさやよさを味わうことができれば、相手に伝えたり相手の思いを聞き取ったりする態度を育てることができるだろう。
- ・ 目標を踏まえた授業を展開すれば、児童一人一人が自ら考え表現する力が育つであろう。



最終ゴール

友だちの意見を聴き（受け入れ）、自分の考えと比較し、自分の考えをまとめ、表現方法を工夫して伝えることができる児童

【各学年の最終ゴール】（各学年の「★話すこと・◆聞くこと」に関する目標とする児童の姿）

第1学年	第3学年	第5学年
★身近なことや経験したことから、話題を決め、必要なことを話すことができる児童 ◆大事なことを落とさずに聞くことができる児童	★筋道を立て、相手を見ながら言葉の間をとり、丁寧な言葉を用いて話すことができる児童 ◆話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりすることができる児童	★相手の意見を比較して、自分の考えをまとめて、的確に相手に伝えることができる児童 ◆相手の意図をつかみながら聞き、自分の考えと比較することができる児童
第2学年	第4学年	第6学年
★事柄を順序立てて、相手に応じて丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すことができる児童 ◆大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くことができる児童	★言葉の抑揚や強弱に注意しながら、適切な言葉づかいで話すことができる児童 ◆話の中心を捉えて聞き、質問したり感想を述べたりすることができる児童	友だちの意見を聴き（受け入れ）、自分の考えと比較し、自分の考えをまとめ、表現方法を工夫して伝えることができる児童 (本年度は6学年児童在籍なし)

手立て 初期段階 (9月～)

- ・ 教室前面に、各学年で設定した「最終ゴール」を意識した「話すこと・聞くこと」の掲示物を作成する。
- ・ 各教科の授業において、発表の場をできる範囲で意識的に設定し、各学年の最終ゴールを目指していく。
- ・ 各学校行事等、学校教育活動の様々な場面で、発表する場を設けていく。
- ・ 朝の会や帰りの会で、各学年の最終ゴールを意識した発表のプログラムを取り入れたり、既存のプログラムの見直しを図ったりして、常時実施する。

中心となる 手立て (10月～)

- ・ 指導者は「口を挟みすぎずに」「待つ」ことを常に意識して指導する。
- ・ 話し合いの形態（ペア・グループ活動等）を積極的に取り入れたり、話し合いの方法を工夫したりして、話し合う活動の楽しさやよさを体験させていく。
- ・ 「話し方名人」「聞き方名人」を参考し、全教科で授業を展開していく。
- ・ 教師は、児童個々の「アンケートの結果」「教師の評価」「学力診断テストの結果」を把握し、児童個々に即した援助を適宜実施していき、最終ゴールに近づくようにしていく。

手立て 追加事項 (1月～)

- 【全校放送で発表の場の設定】
- ・ 内容：読書の時間等に読んだ本の紹介と感想
 - ・ 日時：担任裁量にて不定期に実施
 - ・ 時間：低学年→朝の時間、中・高学年→給食の時間
 - ・ 発表の目安：各児童、学期に最低1回は発表

評価方法

- ・ 学力診断のためのテストの「話すこと・聞くこと」に関する設問の正答率の変化（10月にH20、2月にH21。2～5年で実施。）
 - ・ 授業担当者から見た評価と担任から見た評価（最終ゴールの姿と照らし合わせて評価（ABC）及び所見。10月と2月に実施。）
 - ・ アンケート調査で意識の変容調査（10月と2月に実施）
- 【評価の基本方針→児童個々に評価】

研究授業&授業検討会

指導案は略案。授業者が共同立案か個人立案かを選択。授業検討会はワークショップで活性化。

1 研究授業

【日時】 10月31日（月）1校時

【学年・単元】 5年生「大造じいさんとガン」

【本時の目標】

友達の朗読を聞き、効果的だった工夫や表現されていた思いを聞き取り、自分の思いと比べながら、友だちにわかりやすく感想を伝えることができる。

【中心となる手立て】

ペア・グループごとに、少しずつ朗読し合い、アドバイスがしやすいようにする。

2 授業検討会

【主な成果】

- ・ ペア学習は意見が出しやすく効果があった。
- ・ 話す・聞く・書くことはよくできていた。
- ・ 振り返りがきちんとできている児童がいた。

【主な課題→改善策】

- ・ ペア学習の場の設定に工夫→離れて行うなど。
- ・ 発表の仕方のフォーマットを指導すべき→教科書に掲載されているものを活用。
- ・ 自分の思いと比較して発表ができていなかった。→自分の考えをしっかりと書かせて思考を整理させる。話し合いの場面でペア学習を取り入れてみる。

1 研究授業

【日時】 11月30日（水）2校時

【学年・単元】 2年生「おもちゃの作り方をしようかいしょう」

【本時の目標】

話の順序に気を付けながら、相手にわかるように紹介したり、聞いたりすることができる。

【中心となる手立て】

話し方・聞き方のポイントを掲示し、聞き手に分かりやすく伝えようとする意識をもつようにする。

2 授業検討会

【主な成果】

- ・ 話すことに関する掲示がよくできていた。
- ・ ワークシートに説明があったので、発表しやすかった。

【主な課題→改善策】

- ・ 子どもたちの表情やうなずきがない→教師が演技して手本を見せてまねさせていく。
- ・ 発表の場を増やす必要性→他学年の前で発表したり、全校児童の前で発表したり、他校と交流授業をする等、発表する訓練を行っていく。
- ・ 評価カードは、低学年には○×でもよいが…→文章で書かせることも必要。

1 研究授業

【日時】 12月7日（水）3校時

【学年・単元】 1年生「おはなしきいて」

【本時の目標】

経験の中からみんなに話したいことを選び、話の順序を考えながら、丁寧な言葉を使って話すことができる。話の大事なことを落とさないように興味をもって聞くことができる。

【中心となる手立て】

自分の話したいことについて文章に書いたことをもとに、実物や絵を見せながら、丁寧に話せるようにする。聞き手は、大事なことを落とさないで聞けるようにする。

2 授業検討会

【主な成果】

- ・ 掲示物を使って、話すときや聞くときの注意点を確認したのでよくできていた。
- ・ 大事なところを落とさないでよく聞き、中心をおさえた質問ができていた。
- ・ 教師が「待つ」「見守る」姿勢ができていた。

【主な課題→改善策】

- ・ 返事が小さい児童→普段から粘り強く指導。
- ・ 声の大きさの指導の必要性→声の大きさ基準表を活用して指示していくと、低学年には有効。

評価（○成果と●課題）～児童は最終ゴールに近づいたか～

＜3つの評価結果＞

- 「話すこと・聞くこと」に関する学力診断テストの結果は、5年生以外は向上している。学力面でも成果が見られた。
- アンケート結果では、肯定的に自分自身の態度や能力を捉える児童が増えた。意識面でもよい変化が見られ出してきた。
- 教師から見た評価や所見では、「聞くこと」に関する評価が上昇した児童が増えた。

＜ワークショップの主な意見＞

- 比べながら聞ける児童が増えた。
- 落ち着いて聞ける児童が増えた。
- 付け足して話ができる低学年児童が増えた。
- 人前で話すことを楽しみにしている様子が見られる。
- ゴールに近づいた学年があった。
- 自分本位で友だちの意見を聴き入れることはできていない。
- 言い回しがわからなかったり、語彙が少なかったりして、うまく説明できない時がある。
- 話すことに自信が持てない児童がいる。

＜総括＞

「聞くこと」については各学年とも最終ゴールに近づくことができたが、「話すこと」に関しては、向上の兆しは見えてきたが、まだ最終ゴールは遠い。